



八王子盲学校だより



令和6年6月発行 第3号
東京都立八王子盲学校長 田島 由紀子

「心が通って中身が伝わる」

副校長 能瀬 圭介

学校教育ではよく、「個に応じた指導」、「個性尊重」という言葉を耳にします。何度も聞くということはそれが教育には大切なものであり、難しいことを意味しているのだと思います。私は、行ったことは活動した分だけ身に付くもので無駄なことはなく、だからいかにしてねらいどおり活動させるかがカギとなっていると思っています。

ところが、教育は人が人にするので、こちらの意図がいつも素直・単純に伝わるとは限りません。教職員が毎週提出している週ごとの指導計画には、「児童・生徒にどこまでを求めたらよいのか」という相談ごとや、「児童・生徒の表情の変化に注目している」という様々なアプローチを試みている実践が記載されています。

教育・指導の内容は言うまでもなく心から心へつながるものです。本来、そこには相手に届いてほしいと念ずる気持ちと受け皿になる気持ちとが必要で、その心は教育の目的であるとともに教育に欠くことのできない手段でもあります。何でもすぐにできる場合は苦労も少なく、期待がますます膨らんでくるでしょう。でも、幼児・児童・生徒一人一人の中には取り掛かりのゆっくりなケースもあります。言葉での表現が弱かったりするケースもあります。ふと気が付いてみると、こちらだけが一方的に話して引っ張っていることもあります。

また、幼児・児童・生徒からも届けたい気持ちがあります。届けたい気持ちを育てることも大切なのです。こちらの心に届くまで根気強く聞く。待つ。すぐにこちらから誘導しないで待つ時間を長くして気持ちの届け方を学ばせることに主眼を置く。

日々の授業、指導のやりとりを見ながら、あらためてお互いの心が通って本当の中身が伝わることの難しさと大切さを感じています。



本校の支援・相談について

本校では、教育支援コーディネーターの先生を中心に、学級担任の先生、自立活動の先生等によって幼児・児童・生徒の個々のニーズに合わせて支援をしています。この支援には、各家庭や福祉、医療とも連携が必要で、より良い学校生活となるよう情報共有や対応の検討を進めていきます。保護者の皆様に参加できる行事で相談の場として、例年ではあいサポート研修会が開催されていましたが、今年度は校舎移転の都合から実施しないこととなりました。もし、お気づきの点がありましたらお電話でも構いませんので、お気軽に御相談いただき、一緒に考えていきましょう。

その他外部の方向けに、学校公開は11月15日(金)に行います。また、主に未就学児を対象として育児相談、地域の園・学校に在籍する幼児・児童・生徒に対する外部支援も適宜行っています。多くの見え方にお困りの方に役に立つ学校であるよう支援・相談に力を入れていきます。

本校の進路指導について

本校では、幼児・児童・生徒一人一人が、将来の自立と社会参加に必要な意欲や態度、能力を身に付けられるよう、学校教育全体で進路指導に取り組んでいます。

幼小学部や中学部にて、安心して学べる環境の中で興味・関心を広げ、

- 「自分でやってみよう」「自分から関わろう」とする意欲・態度を育てること
- 挨拶・言葉遣いなどの基本的な生活習慣を身に付けること

を大切にしています。また、自分の進路を主体的に考え、適切に選択していける力を身に付けられるよう、卒業生や視覚に障害のある先生の話や聞く学習、職場での就労体験(実習)・進路先見学といった取組も各学部で行っています。昨年度の小学部・中学部職場体験と普通科の実習では、企業・福祉施設合わせて八王子市を含む8市3区の22事業所に御協力いただきました。理療科では臨床実習で地域の皆様に御協力をいただいています。進路指導では、御家庭や地域・関係機関の皆様との連携が欠かせません。幼稚部から高等部専攻科まである総合校であることの強みを生かせるよう、今後も進路指導の充実を図ってまいります。御家庭や地域の皆様には引き続き御協力をよろしく願いいたします。

トピック 今年もやります「地域清掃活動」

今年度も児童・生徒・教職員も含めて、自分たちのできごとで、地域に貢献していこうと考えています。月に1~2回程度、本校周囲のゴミ拾いや落ち葉掃き等を行います。児童・生徒の皆様が、地域の方々と爽やかな挨拶を交わしながらの活動を通して地域への関心を高め、社会の一員としての自覚を高めることを期待しています。

